もとごりょうば　しらなみごう　ひ

元御料馬「白波号」碑

分類：史跡
町選定文化財

前之峯陸上競技場南側にある上野神社境内にあります。大正３年１月、馬産改良に尽力した上妻源一郎氏が、明治天皇から下賜された御料馬白波号について、後世に伝えるため記念碑を建立しました。

鹿児島県史によると、江戸時代の薩摩・大隅・日向の三州は、九州一の馬産地でした。それ以前も種子島においては、南北朝時代（1340 年代頃）に６代島主時充が塩屋牧のほか、直営牧場を安城・野間・島間・上中・西之・馬毛島などに設けてその保護繁殖を行ったとされています。

明治 18 年、県知事は種子島を優良馬の生産地に指定し、種馬千秋号を贈呈しました。さらに産馬組合の設置を命じこれを奨励したため、種子島の馬産改良は活気づきました。この改良に力を尽くしたのが上妻源一郎氏です。

このような上妻氏の功績が認められ、明治 25 年、宮内省より県庁を経て、天皇の御料馬白波号が上妻氏へ貸し付けられました。当時の県知事山内堤雲氏の働きかけによるものとされています。

白波号は、本県岩川村産で、県警部長が愛育していたものを大迫子爵が買い受け、東京に連れて行き、その後松方侯爵の所有となり、御料馬として献上されたものです。

上妻氏は恩典に報いるため、種馬用として大事にし、馬産改良に力を注ぎましたが、明治 28 年１月 20 日、白波号は惜しくも病死してしまいました。

その後も種子島では本土から種馬を購入し、改良に尽くしたので、種子島産の馬は好評だったといいます。

元御料馬白波号碑